

令和 8 年度第 1 学期終業式式辞

おはようございます。

穎明館生の皆さん、この 1 学期は皆さんにとってどのような学期でしたか。私は 4 月 8 日、始業式で「あなたならではの **EMK** を語れ。あなたならではの **EMK** を語れる 1 年にしよう」と呼びかけました。**EMK** を語れる 1 学期になりましたか。

時間は誰にでも平等に与えられています。誰もが同じ時間を過ごしたわけですが、現時点でも語れる **EMK**、経験、道徳、知識は、人によってかなり違うと思われまゝ。同じ環境で同じ経験をすれば、同じ学びで同じものを身につけられるということでは、当然ありません。「あなたならではの **E (Experience)** 経験を語れ」——今日は「経験」の話をします。

「経験は意図的に積み、整理を加えなければ実力にはならない」という教えがあります。この言葉は、受け身の経験を避け、目的をもって行動し、振り返り（整理、言語化）を行うことの重要性を示しています。

例えば今、皆さんは私の式辞をどういう気持ちで聞いていますか。「校長先生の話をしっかり聞こう」という意志をもって聞いていれば、私の言葉はあなたの心まできちんと届くはず。早く終わればいいな」と思って、ただボーっと聞いて時間を過ごせば、何も記憶に残らないでしょう。「経験を意図的に積む」ということは、自らの意志で主体的に取り組まなければ、ただただ無駄に時間が過ぎていくということです。心の在り方一つで、経験の持つ意義は大きく変わっていきます。

そして、「整理を加えなければ実力にはならない」というのは、経験で得たことの振り返りが大切だということです。

例えば皆さんは 1 学期に多くの学習経験をしましたが、やりっぱなしになっていませんか。不十分だった教科学習の復習に力を入れることは、学習経験に整理を加えることです。行動面ではどうだったでしょうか。素直に自分の反省点を認められる人間でありたいものです。自分自身の在り方について見つめ直し、成長につなげましょう。この後の担任の先生の指導・助言を活かしてください。

また、1 学期は宿泊体験学習も行われました。参加された皆さんにとって、体

験学習は大きな学びになったはずです。体験を風化させないためにも、皆さんそれぞれの言葉で残しておくことが大切です。今一度、振り返ってみてください。

そして、夏休みに夏季講習、文化祭の準備やクラブ活動の合宿などへの参加を予定している人も多いことかと思えます。自分の実力にするために、適宜、「この経験を通して何を学んだのか、身につけたのか」と自問自答してみることで。経験を今後活かすことにつながるはずです。

さらには、グローバル経験ということでは、今年もチェルトナムは7月16日から、イートンは7月27日から、サマープログラムでの学びに自ら進んで参加している、参加する21名の生徒たちがいます。日常から離れた得難い経験を、どう自分自身に生かせるのか。現地での学びも大切ですが、帰国してからの整理も必要ですね。これからも伝えていきたいと思えます。

ちなみに私は校長になってから、日記というほどではありませんが、感じたことや学んだことを日々書きとめる、覚書、備忘録（最近ではジャーナリング、書く瞑想とも言うそうですが）、を習慣にしています。不思議なもので、文字にしてみると気持ちや考えが整理され、「同じ失敗をしないぞ」、「覚えておこう」とか、「今度はこれを伝えよう」などと、意志を高めるエネルギーも湧いてきます。

「整理を加えなければ、実力にはならない」——皆さんには、経験からの学びを整理して、その都度、書き出してみることも勧めておきます。

「経験は意図的に積み、整理を加えなければ実力にはならない」——穎明館生の皆さん、どうでしょうか。もちろん、読書経験もお勧めです。今日の話の文脈からは、読みっぱなしよりは、好きな本、一度読んだことのある本を読み返してみるのもいいでしょう。読むたびに、新たな気づきがあるはずです。

ここで、私から皆さんに夏休みの読書としてお勧めしたい一冊は、椰月美智子さんの小説、『9月1日の朝へ』です。

この小説には、中学教師の長男、「美容男子」高校3年生の次男、スカートをはく自分を好きな高校1年生三男、人間関係に悩む中学2年生末娘、の4人兄弟が登場します。それぞれが夏休みに起こった心を揺さぶる出来事に際して、自分を見つめ変わっていく成長物語です。

この小説は、昨年の夏に発行されました。夏休み明けの9月1日に、子どもたちの自死が最も多いことの「9月1日問題」をテーマに、精神的に不安定にな

りやすい時期だからこそ読んでほしいという著者、椰月美智子さんの思いがあります。発行に際しての著者の言葉、メッセージを紹介します。

「登場人物が、自分の苦しさと向き合いながら、周りとの関係性や自身の変化を受け入れていく。そういう『さなぎ』のような時期を夏休みとリンクして描きました。感情を含めて、自身の軸がぐちゃぐちゃの液体のようになってしまうかもしれませんが、そこから自分の形を作っていく大事な時期でもあります。だからこそ、新学期を「新しい自分になれる節目」にもできると伝えたいと考えました。作中、仲間外れにされた末娘が行き詰まったときに、本を読むなど能動的に動くことで自分を「開拓」していきます。行動をきっかけに自らを俯瞰して、自分の輪郭をなぞるイメージを試してみる。その繰り返しで自分の軸を作りながら、人は少しずつ強くなれるのではないかと思います」。

穎明館生の皆さん、皆さんは夏休みが終わるころに憂鬱な気持ちを抱いたことはありませんか。学生時代の私はそうでした。決して学校が嫌いだったわけではないけれど、通学再開への重苦しい雰囲気を感じ、説明のつかない閉塞感を抱いていたように思います。歳を重ねた今、悩み多き若者には言っておきたい。

「それでも人生は楽しい。多くの出会いがある。自分の世界を広げることができる。私は希望を語る教師でありたい。皆さんには未来に希望をもつ若者であってほしい。大いに読書をしよう。小説『9月1日の朝へ』、お勧めです」。

さて大学受験生、40期生の皆さん、「経験は意図的に積み、整理を加えなければ実力にはならない」——受験勉強でも必要な心がけですね。夏の学習経験を意図的、計画的に積み重ね、模擬試験等でしっかりと整理をしていきましょう。焦らず、慌てず、怠らず——着実に受験勉強を進め、実力をつける夏にしてください。

穎明館生の皆さん、元気で有意義な夏を過ごしましょう。熱中症、山や水の事故などには十分に気を付けて、当たり前前の日常に必ず戻ってきてください。

あなたならではの夏を過ごし、あなたならではの意図的な経験を積んだ皆さんと、2学期の始業式、この記念館大教室で会えることを楽しみにしています。

以上、令和8年度第1学期終業式式辞といたします。